

No. 1285

来年は国際児童年

— 稲村長官が会場視察 —

愛知県愛知郡長久手町にある愛知青少年公園。この公園が来年8月に開かれる国際児童年の会場に決まり、8月24日、稲村総理府総務長官は愛知青少年公園を視察しました。国際児童年行事はオリンピックや万国博と違って初めて行なわれるもの。

それだけに世界各国ともアイデアが競争。

視察をおえた長官は「児童年の記念となるような施設を公園内に作る」と約束。愛知県でも早々に“事務局”を発足させ、具体的な構想作りに入りました。

ヤクルトV1に夢つなく

V3に向かって独走体制に入りたい巨人、そうはさせじと背水の陣をひくヤクルト。8月28日、巨人対ヤクルトの24回戦が満員の神宮球場で行われました。一回表、巨人は早くも二死満塁と先制のチャンスを迎えます。しかし河埜の当りは不運にもレフト正面、得点には至りません。二回裏ヤクルの攻撃。先頭バッターマニエル、続く杉浦と連続ヒットでランナー一塁三塁。大矢が倒れた後バッターは水谷。水谷がうまくセンター前にはじき返してヤクルト先行。その後ヤクルトは攻撃の手をゆるめず、3回には大杉、4回には船田のタイムリーで着実に得点を加えます。更にヤクルト五回の攻撃。死球と四球で出塁したランナー2人を置いて大矢が替ったばかりの浅野からレフト前にヒット、大杉かえり、まず一点、続くピッチャー鈴木は意表を突くスクイズ、ヒルトンもレフト前にヒットしてこの回一挙4点巨人を大きく引き離します。

これに対して巨人は7回ようやく疲れの見てきた鈴木からシピンがヒットで出塁。河埜のタイムリーで1点を返します。

8回にはヤクルト二番手、井原に柳田、柴田、高田が連続長短打を浴びせて3点をうばい追い上げます。ここでヤクルトは安田を救援に送ります。安田は巨人の誇るクリーンナップ、王、張本、シピンをわずか7球で切って取る堂々たるピッチング。

この後巨人は9回1点を入れましたがおよぼず、結局7対5でヤクルトが勝ち、神宮決戦と云われた3連戦はヤクルトの2勝1分、V1に夢をつなぎました。